

ジョージア (グルジア) 便り その45

『遠い国イスラエル』

文 高野陽年 text by Yonen Takano

テルアビブ郊外の海岸線に広がる浜辺に座り地中海を眺めた。小高い波を乗りこなすサーファー達のうんと先には水平線がどこまでも続く。300km先にはキプロス島が浮かび、その先にはトルコが位置するはずだが気配は全く感じられない。正確な地図を持たない昔の人々はどう思っただろうか。僕が座っている場所が地球の縁だと錯覚してもおかしかっただろう。300kmといえば東京から名古屋までの距離とほぼ等しい。遠いようで近い気もする。

僕らはバレエ団のツアーでイスラエルにやってきた。僕の中でのイスラエルとは遠い中東の国。未知の場所である。しかし実際にはジョージアから飛行機でたった2時間半のフライトで着く。もつと近く思えるヨーロッパへ出るには最低でも4時間、乗り継ぎなども含めると半日はかかってしまう。日本からイスラエルへの距離を考えても、物理的な距離はヨーロッパのそれよりも短い。けれども僕らは中東の国よりも欧州を近く感じてしまうのはなぜだろう。日本は明治以降ヨーロッパよりも多くを学び、キリスト教的文化を享受

してきた。ある意味でヨーロッパ文化圏のなかに取り込まれている。僕らはヨーロッパに対して人種は違えどもどこか親近感を持つ。そういった背景を元に感覚的に距離を測っているのかもしれない。

イスラエルのイメージのほとんどがニュースに映る混沌であった。ユダヤ教徒が多く住むという面でも見当がつかない。そして中東という土地がら砂漠の中にある都市を想像していた。

僕の予想は裏切られた。僕らが滞在するテルアビブは整然と立ち並ぶ高い高層ビル群や美しい建築物を有する安全な場所で、緑や色とりどりの花が街を彩る。人々はスポーツを愛し、男性が頭にかぶるキツパと呼ばれる小さな帽子を除けば一般的なヨーロッパ人にも思える。耳をすませばヘブライ語だけではなくロシア語、フランス語、アラビア語が聞こえてくる。

『距離』は不変ではない気がしてきた。キロメートルはただの数字に過ぎない。テルアビブからキプロスまでの300kmよりも東京から名古屋までの『距離』のほうが断然近く、ほとんどの日本人

がドーバー海峡を挟み40kmのイギリスとフランスよりも横須賀線で行く東京と鎌倉が近いと言っただろう。『距離』は文化的背景や知識、経験、親近感で変わるのだ。交通手段の発達した今日、数字的距離よりも感覚的距離のほうが意味をなす。そして感覚的距離は個人によって異なる。

テルアビブに親しんだ僕にとってイスラエルはもはや遠い中東ではなくなつた。ヨーロッパよりもジョージアにも日本にも近い豊かな街である。

様々な場所で踊る事で僕は世界中の『距離』を縮めているのではないか。なんだか誇らしくなつた。

Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

